

ひきこもりから自立の場

不登校やひきこもりの青少年の学習や就労を支援している横須賀市上町2のNPO法人「アンガージュマン・よこすか」(島田徳隆理事長)が、内閣府「子ども若者育成・子育て支援功労者表彰」の「子ども若者育成部門」で特命担当大臣表彰を受けた。社会になじめない青少年に寄り添い、安心して学習・就労できる居場所を提供し数多くの自立を促してきた地道な活動が評価された。【田中義宏 横須賀のNPO法人】

内閣府から大臣表彰

不登校の児童生徒、ひきこもりの青年の居場所を作ろうと、公立中学校教頭ら有志が上町商盛会商店街の空き店舗を活用し03年9月に設立。同12月に法人認可され、04年4月に正式に開所した。

06年5月には、引きこもりの若者に運営させ就労を支援する「はるかぜ書店」をオープンさせた。

若者はまず、書店で働くことで社会参加の意欲や生きがいを見いだす。商店街の協力店や市内の協力企業で職場体験するなどして、

就職につながるケースもあるという。

また学習が遅れがちな不登校の児童生徒には、元教員や塾講師らが受験勉強を含めて個別指導を行っている。こうした活動で年間約60人の青少年が経済的、精神的に自立し、巣立っていくという。現在、中学生以上の10〜30代の若者計約50人が利用している。

今年度から横須賀市と連携し、生活保護受給世帯の家庭支援も行っているほか、10月30日には、同市の補助で市内の一軒家やアパートを借り、利用者が一定期間共同生活する「シェアハウス事業」も開始。同市佐野町のシェアハウスでは、26〜34歳の男性4人が共同生活を始めている。

自身も不登校とひきこもりを経験した法人事務局長、石井衣子さん(34)は「一人一人の事情はみんな異なり、きめ細かく対応していきたい」、島田理事長は「表彰を受けたことで、こうした活動への理解が広まり、(ほかの団体も)後に続くのでは」と話した。



内閣府特命担当大臣表彰を受けた「アンガージュマン・よこすか」の島田徳隆理事長と石井衣子事務局長。横須賀市上町で。